

平成29年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	地域づくりを牽引する技術者育成教育 「まち」なかキャンパスにおける地域デザイン力涵養のための対話型学修の実質化	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	工学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	須坂市	
実施責任者(所属)	土本俊和(工学部)	
取組の目標	文化資源が豊富な須坂市を教育の現場として、地域のニーズをふまえた地域づくりの能力「地域デザイン力」を涵養するための対話型学修の教育プログラムを実質化し、学生の主体的学修を促す仕掛けづくりを地域人材とのマッチングを軸に試みる。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	①講義 ・建築設計製図Ⅳ【3 年次生対象・後期開講必修科目】 須坂市(旧上高井郡役所)にて計 10 回の講義を行い、須坂市と須坂景観づくりの会、地元商店等の協力のもと、「街区の再生」・「民家の再生」を課題とした対話型学修を実施し、歴史的市街区と歴史的建造物の再生案を提案した。2 月 3 日には市民公開講評会(須坂市シルキーホール)を開催し、優秀作の発表を行った。 ・建築心理学演習【大学院演習・通年】 須坂の歴史的市街区の公共性について調査し、文化施設として生まれ変わった旧小田切家住宅に、地元建設会社(クラシマ建設)と協同し学生がデザインした机と椅子を制作し、設置した。市民公開講評会(須坂市シルキーホール)では、制作過程の資料を発表し、作品を展示した。 ②調査研究 ・都市の形成過程に関する調査研究【期間:通年】 歴史的建造物の実測調査や史料調査をふまえて、須坂市における都市の形成過程に関する研究を実施した。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	(評価理由) 須坂市の地域人材とのマッチングに取り組み、建築設計製図Ⅳを中心とした対話型学修の仕組み([座学]・[演習]・[応用])を実質化することができた。 (今後の展望) これまでに開発した教育プログラムを、改組により新設された「建築学プログラム」と「工芸デザインプログラム」に対応させるとともに、地域のニーズに応じた作品制作を軸として、地域人材(地域に根ざす知恵や知識、技術などを有する人材)とのマッチングを強化する。